



Japan Business School Case Competition 2022

課題ケース概要

2022/12/4

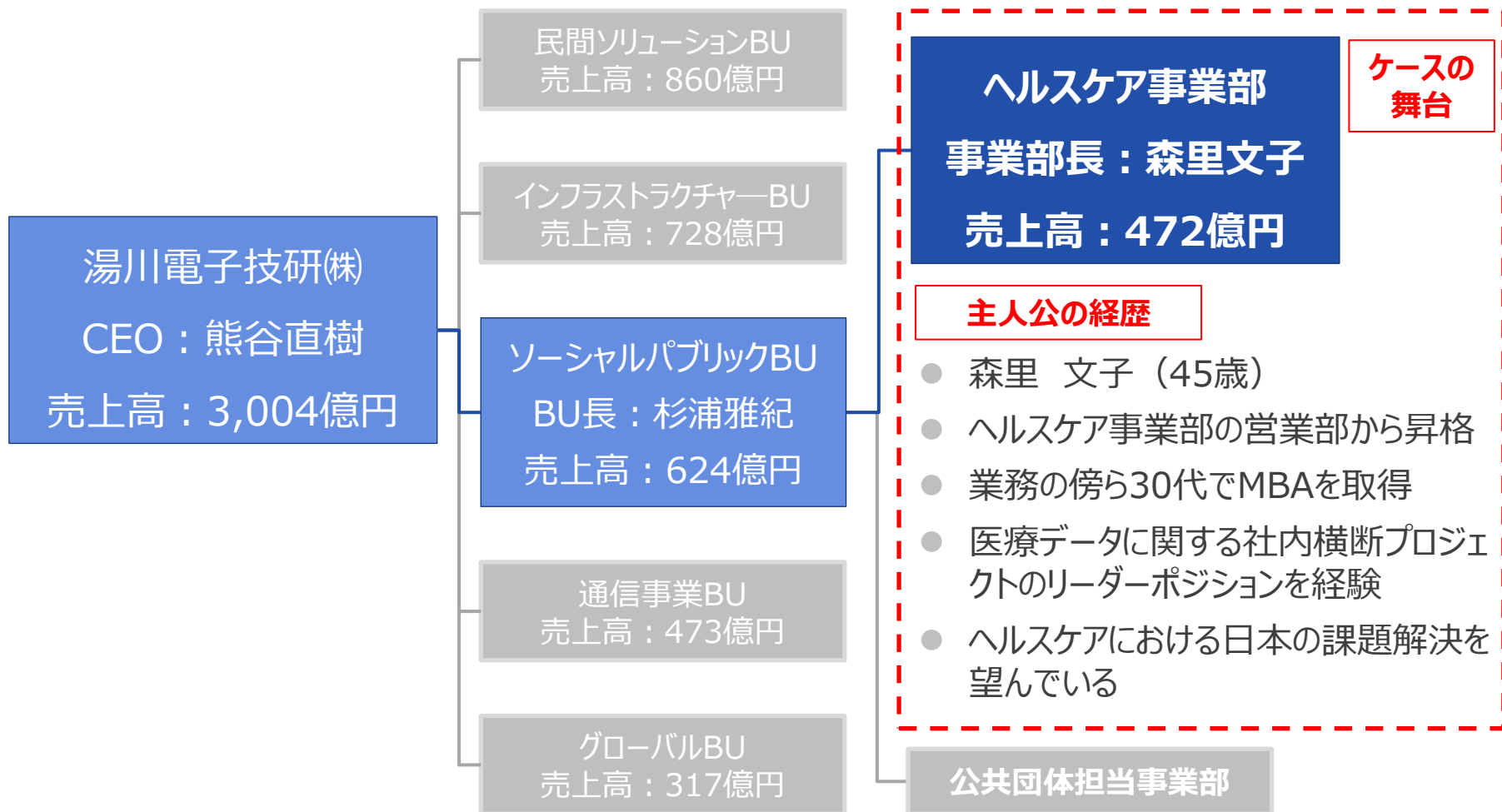
JBCC2022実行委員会/ケース制作チーム

売上高約3,000億円の手Sier企業 「湯川電子技研株式会社」が舞台

■ 会社概要

商号	：	湯川電子技研株式会社
設立	：	1935年2月20日
売上高	：	3,004億円
資本金	：	412億円
事業内容	：	ヘルスケア、ICTサービス、ソフトウェア、通信等の 社会インフラ事業
その他	：	Yukawa WAYを2020年に制定 Purpose、Values、Conductから構成

ヘルスケア事業部 事業部長、MBAホルダーの森里が主人公



自社における足元の業績は安定しているが、
今後は医療・ヘルスケア業界が変化していく見通し

■湯川電子技研

- 現時点では自社のヘルスケア事業部は黒字（営業利益も安定）
- 電子カルテ 日本シェア3位

■日本の電子カルテ業界

- 大病院における電子カルテの普及率は90%以上
- 市場規模は2020年度で2,676億円、3年後には2,838億円と、僅かに成長

■日本の医療・ヘルスケア業界

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、現状の医療行政における課題が明らかに
- 日本でも医療データ活用が議論されているが、諸外国に比べて遅れている
- 市場規模は2016年の約25兆円から2025年には約33兆円に成長と予測

ヘルスケア事業部長としてヘルスケア産業の将来像を描き、 自社が担う役割と戦略を提案

■ 課題ケース設定上の時期

- 2年以上続くコロナ禍のただ中である、2022年9月3日
※外部環境の影響については、解答作成時点の情報を活用可能
- 11月に経済産業省が主催する有識者会議に熊谷CEOが出席予定

■ 場の設定

- 森里が熊谷CEOに提案する経営会議

■ プレゼンの内容

- 有識者会議で熊谷CEOが議論するための医療・ヘルスケア産業のあるべき姿
- その上で、電子カルテ事業を含め、ヘルスケア事業部の10年間の事業計画案
- 発表時間は14分、質疑応答はセミファイナル9分、グランドファイナル15分

出場153チームの 頂点に立つのはどのチームか？



日本ビジネススクール・ケース・コンペティション

2022

「MBA」から生まれる、絆と挑戦。

各チームの健闘をお祈りいたします！